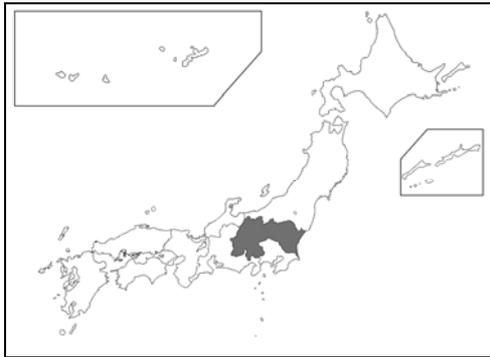


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

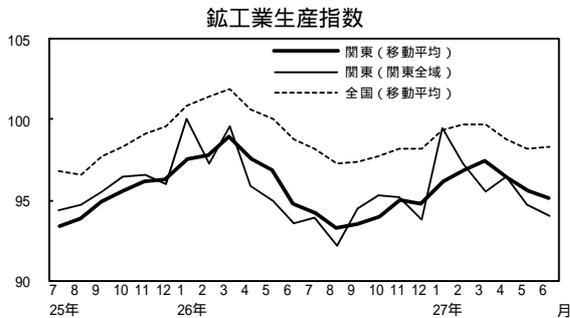
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 5 月)	今回 (平成 27 年 8 月)	
鉱工業生産	持ち直しの動き	<u>おおむね横ばい</u>	
住宅建設	減少	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

輸送機械は国内向け小型車等を中心に減少。電気機械はセパレート型エアコン等を中心に増加。生産用機械は北米向けのマシニングセンタやショベル系掘削機械等を中心に増加。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1~3 月期	4~6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	18.6	5.8	7.2	3.0	3.3	1.1
化学	15.1	6.8	-	3.0	0.3	-
電気機械	9.3	3.5	1.4	13.6	2.3	1.8
情報通信機械	6.2	0.0	8.2	8.0	3.6	1.3
生産用機械	6.1	5.2	1.2	1.1	6.3	8.4
鉱工業	100.0	2.7	2.4	1.0	1.9	0.7

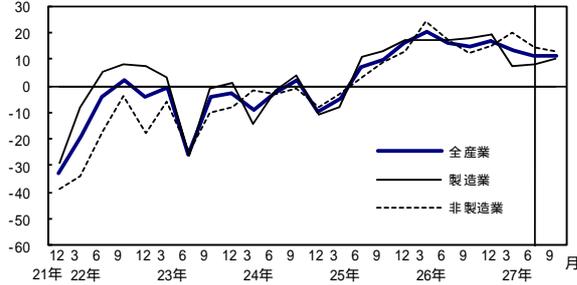
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 4~6月期、6月は速報値。化学は速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

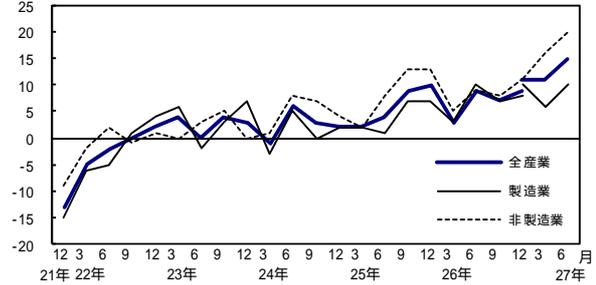
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



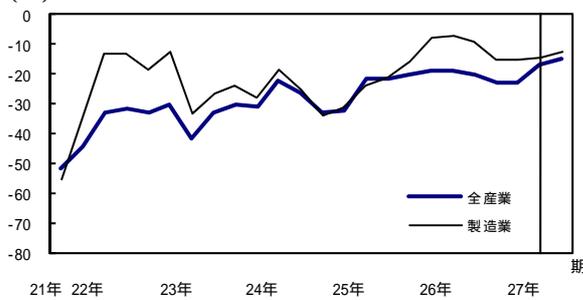
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



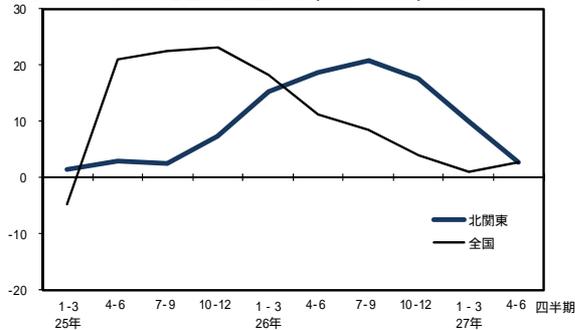
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「主力製品の落ち込みが大きく、その落ち込みを他製品でカバーしきれない状況にある(化学工業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績	27年度計画
全産業	7.5 (8.7)	1.3 (0.9)
製造業	21.2 (8.0)	7.0 (1.9)
非製造業	14.4 (10.3)	11.8 (1.7)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

日本銀行前橋支店管内。

(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.5%増、5月は同0.7%減、6月は同1.0%減となった。

大型小売店販売額

百貨店は、4月は、「その他の商品」、「身の回り品」等の動きが良かったことから、前年を上回った。5月は、「その他の商品」、「家庭用品」等の動きが良かったことから前年を上回った。

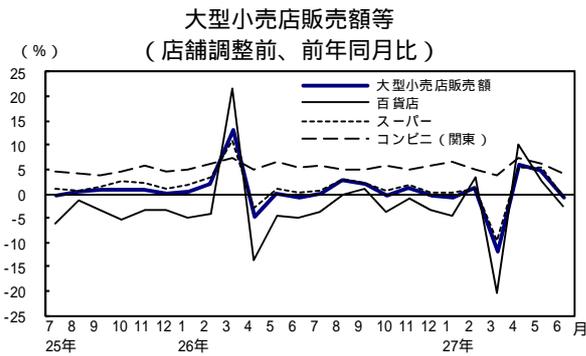
6月は、「衣料品」、「身の回り品」等が不調であったことから、前年を下回った。

スーパーは、「飲食料品」、「衣料品」等に動きがみられたことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

北関東地域の家計動向関連DIは、47.7となり前月より0.3ポイント上昇した。

「来年放映の大河ドラマの主な配役が発表になり、観光客が増えてきている (商店街)」など「良くなっている」とする回答が増加した。



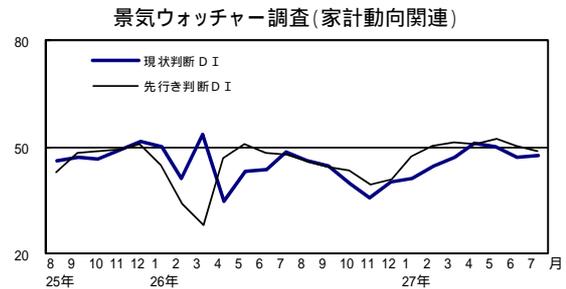
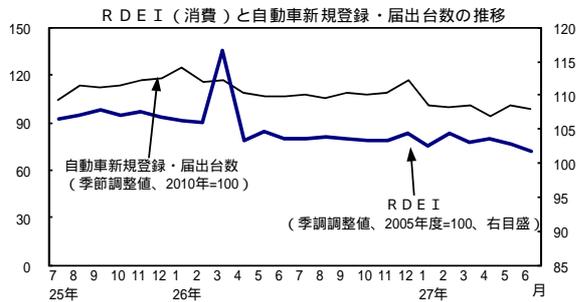
	27年4-6月	27年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.6	0.5	0.7	1.0
大型小売店 (*2)	3.3	6.0	4.8	0.8
百貨店 (*2)	3.1	10.1	2.6	2.5
スーパー (*2)	3.3	5.2	5.3	0.4
コンビニ (*2)	5.8	7.4	6.0	4.1
乗用車 (*3)	8.4	13.3	7.7	5.0
(季節調整値) (*3)	2.3	6.2	6.6	1.4

(備考) 1. 季節調整済前期 (月) 比 (%)

2. 店舗調整前、前年同 (月) 期比 (新潟、静岡を含む)

コンビニは、関東全域

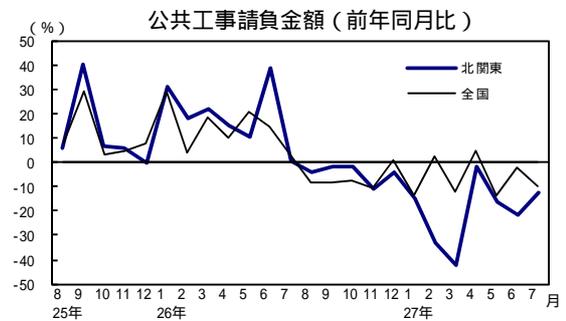
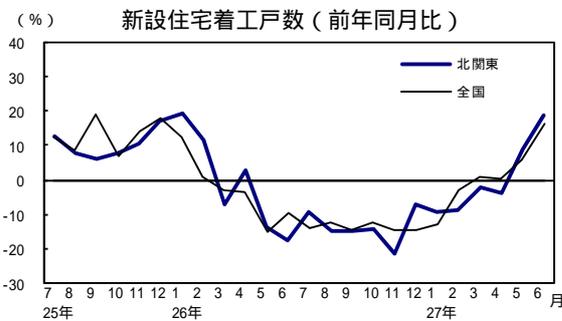
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期 (月比 (%)))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度を下回っている。

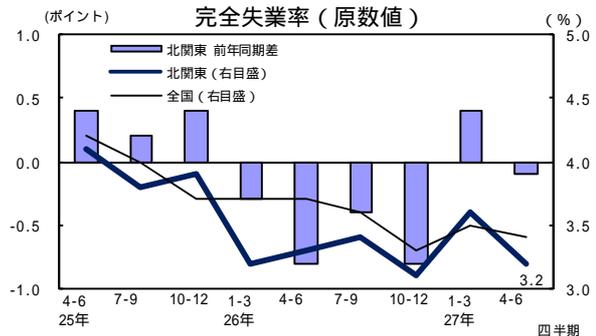
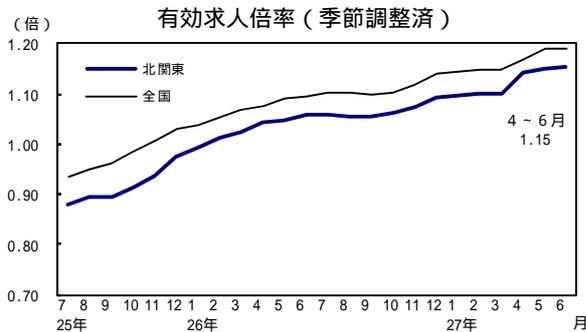


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

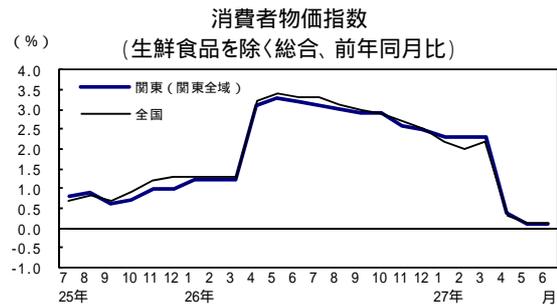
「製造派遣の求人数が増えている。特にコンビニ用の麺類製造の派遣求人が多い（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	26年7-9月	10-12月	27年1-3月	4-6月	27年7月
倒産件数	154	141	146	116	49
（前年比）	18.5	4.4	29.2	0.9	24.6
負債総額	309	228	529	269	105
（前年比）	6.8	1.0	156.7	13.3	63.0



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・猛暑の影響で、来客の鈍化が想定されたが、海外からの旅行者も含めて、おおむね順調に推移している（旅行代理店）

<先行き>

・円安に向かい原材料の高止まりが続き、2割以上価格を上げることができない限りは、赤字かギリギリの状態が続くとみている（食料品製造業）

